

秋田県内に於ける豚の日本脳炎

H. I 抗体の分布について

環境衛生科 児 玉 栄 一 郎
 細菌病理科 藤 沢 宗 一
 " 坂 本 昭 男
 " 庄 司 キ ク

目 的

秋田県に於いて昭和30年より39年まで過去10年間に届出のあった日本脳炎患者は総数159名をかぞえ、死亡者は86名で致命率は54.1%である。これらのうち補体結合反応を行なったもの149名中、陽性者は54名でその3分の1が血清学的反応により日本脳炎と判定された。

よって私共は1965年5月から7月にわたり県内に於ける本症の疫学的調査として一般の飼育豚及び屠場豚若干について H. I 抗体の測定試験を試みた。

方 法

採血地区は県南（仙北郡西仙北町）、（中央秋田市下浜）、県北（大館市）の3カ所とし、県南、中央地区は個人の養豚場で飼育中のものから生後3カ月以内の仔豚をえらび、同一個体より5月、6月、7月の3回にわたり月を追って採血し、又屠場豚は生後8カ所以内のものから屠殺放血の際採血して実験に併した。

尚抗原は診断用乾燥抗原（中山株）を、血球は鷺鳥を使用した。その結果赤血球凝集抑制価が $\times 320$ 以上のものを一応陽性と判定した。

成 績

採血地区	豚の区別	採血時期	採血頭数	陽 性	備 考
県南	飼育豚	5 月	5	0	同一豚より 3回採血
		6 月			
		7 月			
中央	飼育豚	5 月	5	0	"
		6 月			
		7 月			
計			10	0	
県北	屠場豚	5 月	17	5	
		6 月	18	4	
		7 月	16	1	
計			51	10	

以上の如く県内、中央地区各5頭は同一個体より月を追って3回採血したものであるが、何れも抗体を証明しない。

次に屠場豚は合計51頭であるが、そのうち抗体を証明したものを13頭をかぞえ、このうち $\times 320$ 以上の抗体価を示すものは5月に採血したものを5頭、6月4頭、7月1頭の合計10頭でその最高抗体価は $\times 1280$ であった。

む す び

過去10年間、秋田県内の日本脳炎患者の発生時間は7月より12月にわたり、その間9月が最高の発生数を示し、10月がこれに次ぐ。

又地区別には県南、中央、県北とも甚だしい差異は認められない。私共は今回その流行予測調査のひとつとして県内の豚61頭（このうち10頭は同一豚より3回採血）の血清について H. I 抗体の測定を行なった結果屠場豚51頭中10頭より $\times 320$ 程度以上の抗体価を証明した。

（本論文の要旨は第19回日本細菌学会東北支部会で発表した。）